

# 春田がゆく!



## 活動日誌

### 全国初！高松市が「芸術士」を導入

平成22年8月31日(火)～9月5日(日)に、高松市美術館1階講堂にて、「芸術士」と保育所児童たちの創作活動展が開催されました。



人は地域にとって、かけがえの無い宝物です。創造性豊かな人を育成するためには就学前の教育が重要。いちばん感受性が豊かな大切な時期に、芸術家と触れることが、将来大きな財産につながるかと考え、春田はこの活動を推進しています。



### 自分の命は自分で守る

平成22年8月26日に東京で開催された自治政策講座に参加しました。その内容の一部をご紹介します。

テーマ/非難動向に人はなぜ逃げないのか、講師/群馬大学大学院・広域首都圏防災センター長・教授 片田敬孝氏

#### ●自然災害は行政が責任をもって防ぐもの？

昭和34年の伊勢湾台風をきっかけにつくられた「災害対策基本法」は、この50年間で、数千人規模の犠牲者を百人未満まで低減させることに成功しました。しかし、百人未満の犠牲者をゼロにするには、これまでの行政主導による防災では限界。なぜなら被害は減少したことで、「自然災害は行政が責任をもって防ぐ」という意識が蔓延してしまっているのです。

#### ●警報軽視とオオカミ少年効果

情報依存体質な現代人は、いつしか「避難勧告が鳴ったから避難する」のが当たり前になっていませんか。もっと言えば、「非難勧告が出ても特に被害はなかった。避難しなくて良かった」と。でも本当は「避難したけれど被害がなくて良かった」と考えるべき。オオカミ少年効果に支配されて「しまった、逃げておけば良かった」にならないことが大切です。

#### ●備えない自分、逃げない自分を知ることが備えの第一歩

近年「ゲリラ豪雨」が頻発しています。2008年7月の神戸市都賀川で起こった水難事故は、雨が降り出してわずか20分程で川の水位が一気に上がり、人々を飲み込んでしまいました。これでは警報も避難勧告も間に合いません。やはり「自分の命は自分で守る」「地域の安全は地域で守る」が基本なのです。

#### 災害における意識調査

諸外国の常識	日本の非常識
自分で守る 6割	自分で守る 1割
地域で守る 3割	地域で支えあう 3割
公共で守る 1割	行政が何とかすべき 6割

地方自治にとって「自律」が重要なテーマとなる今日、一番大切な命を守るという「一大事」の原点に立ち返ると「自律とは何か」がよく見えてきます。皆さんはどう感じましたか。



相談やお気づきの点がありましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。党員に限らず、どなたでも結構です。

■日々の活動は「春田のブログ」<http://haruta.ptui.jp/blog>をご覧ください。  
■つぶやきは <http://twitter.com/KHaruta> ■携帯で読むにはこちら →

### 春一番 - 編集後記 -

公明党は議員に定年制を設けています。任期中に64歳を迎える場合は候補をせずに後任に譲るといふものです。公明党高松市議会は現在6名の議員を擁し、広い広い高松市を便宜的に分担しております。春田は4年前に太田地域を中心とした高松市中部・南部地域を担って頂いていた森谷芳子前市議の後任として候補をし、今日まで勤めて参りました。

この度、高松西部地域を担われている野口勉市議が定年退任を迎えるにあたり、地元にもどって働かせていただくことになりました。生まれ変わったつもりで再出発するにあたり、6号まで重ねてきた「春風の便り」を「春風 PRESS」としてリニューアルすることにしました。これまで以上に高松市政のことを市民の皆様にはわかりやすく伝え、一緒に考え、一緒に改善をしていくための通信としていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

## 活動実績

平成22年4月～9月	
4月7日	弦打保育所入所式 参列
8日	勝賀中学校入学式 参列
9日	弦打小学校入学式 参列
12日	弦打幼稚園入園式 参列
17日	構想四国 第一回S1フォーラム参加
24日	NPO子どもの虐待防止ネットワーク香川総会参加
5月14日	臨時議会
22日	第一回四国ソーシャルチェンジラボ 参加
6月5日	勝賀中学校運動会 参列 御殿夕暮れコンサート 参列
8日	議会運営委員会
11日～25日	高松市第3回定例議会
18日	7度目の一般質問
20日	豊島橋田プロジェクト 参加
25日	弦打地区婦人会総会 参加
26日	KNS 四国 学生との交流会 参加
7月15日,16日	こえび隊としてボランティアに参加
18日	瀬戸内国際芸術祭・内覧会・前夜祭 参加
19日	瀬戸内国際芸術祭 開会式参列
20日	アートをめぐる島の連続シンポジウム・女木島参加 校区内パトロール 参加
21日	アートをめぐる島の連続シンポジウム・豊島参加
24日	SaaS研究会 主催
26日～28日	会派視察 足立区・新宿区・都留市
29日	市議会議員研修会(さぬき市) 参加
31日	スローライフ・フォーラム 参加
8月6日	議会運営委員会 出席
7日	アートをめぐる島の連続シンポジウム・小豆島参加
8日	瀬戸内国際芸術祭シンポジウム 参加
11日	教育民生常任委員会 出席
14日	高松祭り 総踊り 参加
18日	教育民生常任委員 出席
25日～27日	自治政策講座 参加
31日	高松市芸術士派遣事業活動報告会 参加
9月1日	議会運営委員会出席
8日～24日	高松市第4回定例議会
11日	子どもの虐待防止ネットワーク香川講演会参加

市民相談件数 **38件** / 相談累計 **353件**

## 会計報告(政務調査費)

経費の区分	金額
1 研究研修費	153,935
2 調査旅費	0
3 資料作成費	7,545
4 資料購入費	99,104
5 広報費	0
6 広聴費	0
7 人件費	0
8 事務所費	0
9 その他	0
合計	260,584 円

平成22年4月～9月  
高松市の政務調査費は議員一人当たり年額100万円の予算を計上しています。平成20年度からは政務調査費用は情報公開となり、全議員が1円から領収書を添付して報告することになっています。残額は翌年度5月に返納することになっています。

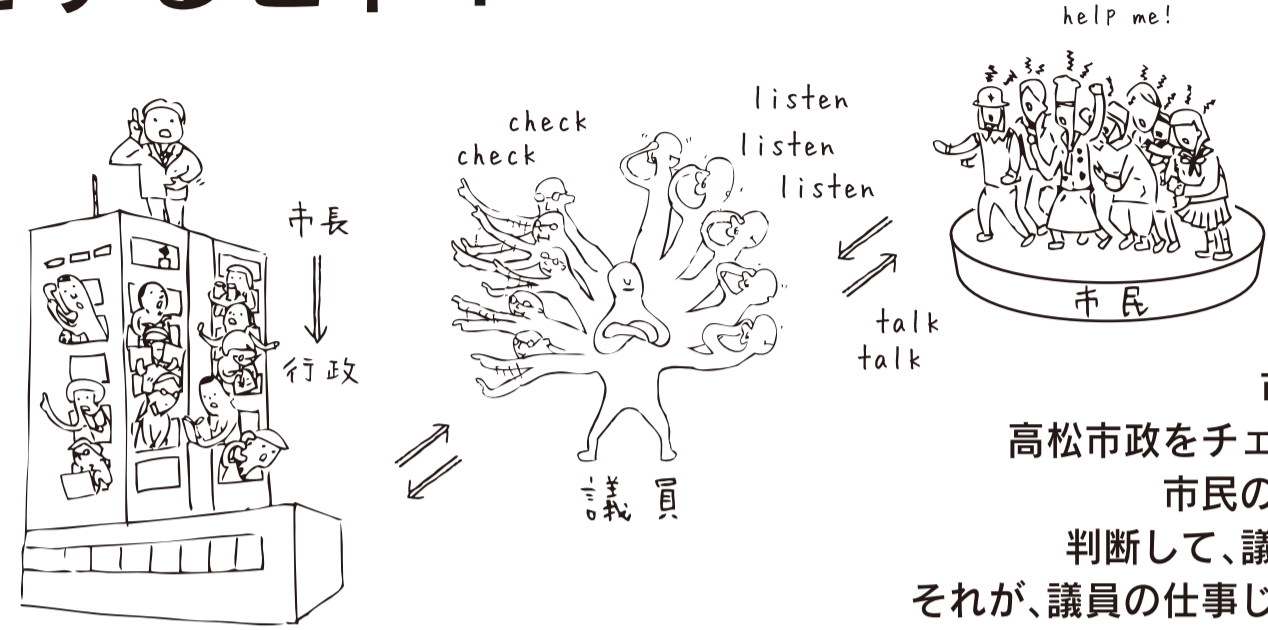


### 春風 PRESS vol.07

発行者：高松市議会議員 春田敬司  
発行日：2010年10月  
連絡先：〒761-8013  
高松市香西東町14番地8  
TEL：087-842-5730



# Q 市議会議員って何をするヒト？



市民の目線で高松市政をチェックする人。市民の声を聴いて、判断して、議論をつくす。それが、議員の仕事じゃないかな。

## 高松市議会議員「春田敬司」と高松の明日を考える。VOL.07

RENEWAL  
2010.October

# 春風 PRESS

生活者の一番近くで、動く、働く。

### 【春田敬司への5つの質問】

#### Q 春田さんにとって、市議会議員ってどんな人？

“市議”って、市民がいちばん声を届けやすい人だと思えますよね。その声を踏まえて、市政を正しくジャッジする人。企業の場合、接客の最前線に真実があるというのがサービス業の鉄則ですが、市政も同じ。だから私にとっては市民相談が最前線。もちろん、県や国だからできることもあるだろうけど、一番生活に密着しているのが市政なので、やっぱり市議会議員が一番やりがいがありますね。

#### Q そもそも市議会議員になったきっかけは？

**A** **がんばっている人が正しく評価される、そんな“村”をつくりたいって、20歳頃からずっと思っていました。**

私が高専を卒業した時、いくら社会人としてがんばろうと思っても、最初からステージが違うという場面がいっぱいあった。だから10の力があって6出す人より、6しかなくても5出してがんばる人を応援したい。そんな思いで経営コンサルタントをやってきたので、市議会議員はまさにそのために与えられた仕事だと思いました。

#### Q 今後、市議会議員に求められることって何でしょう？

**A** **地方分権時代には、議員の「目利き力」がモノを言う。**

地方の道州制や分権制が叫ばれる中、国も使い方を決めて予算交付するのではなく、各自治体が自分たちで考えて使いなさいという風になってきて

います。つまり、市政をジャッジする議会の役割がますます重要になるということです。例えば、予算の優先順位って、行政ではつけにくいと思うんですよ。だって一つ一つの案件そのものはどれも重要ですから。じゃあ、どうするかと言えば、受益者である市民が何を求めるかを踏まえて、議会でしっかり議論して判断するしかない。議員には、問題の着眼点を正しく見極める目が求められると思います。

#### Q 今の高松市の財政状況って、どうなんでしょう？

**A** **今ならまだ投資ができる。高松市は変わるチャンスだと思う。**

今回の紙面で、高松市が初公開したバランスシート(貸借対照表)について解説していますが、全国から見れば高松市はまだ健全経営です。でもリーマンショック以降、市民相談でも失業や生活保護に関する相談が明らかに増えました。今年度、高松市の生活保護予算は100億円を超え、商工費(商業の活性化など)のおよそ7倍にもなります。今後、特に40代以下の世代は、仕事や収入が減る一方で、高齢化による社会負担はますます増えるという厳しい時代を迎えます。ただ救いなのは、高松市は今ならまだ投資ができるんですね。50年後、100年後を見据えた有効な投資ができるよう、今こそ市民ひとり一人が本気で考えないといけない時だと思います。

#### Q そのためには、何が必要だと思いますか？

**A** **「みんなで一緒にやろうぜ!」の楽しさをどう作っていくかが大切だと思うんです。**

一言でいうと、何でも“お役所任せ”では済まない時代になります。「今までは行政がやってくれていたのに、なんで自分でやらないといけないの?」と思うかも知れないけど、ホントは自分で意思決定するほうが楽しいし、納得もできると思う。例えば、地域のお祭り。みんなで何かを一緒にやるのは面倒だけど、いろんな人と協力することで新しいアイデアが生まれたり、ワクワク感やプラスのエネルギーを呼び起こしてくれる。これからのキーワードは「一緒にやる」。一緒に汗をかいて、一緒に考えて、一緒に議論する。そうやってみんながワクワクしなきゃ、何も「変わらない」でしょ。

Profile  
春田 敬司 昭和42年2月23日、兵庫県神戸市生まれ。国立高松工業高等専門学校機械工学科卒。(有)ジャストブレイン代表取締役(経営コンサルタント)。平成19年4月高松市議会議員初当選。妻と中学校2年生、小学校4年生、愛犬1匹の5人家族。愛読書は「三国志」、「永遠の都」。ポリシーは「認識せずして、評価せず」。



10分で分かる

# 高松市のお財布事情

平成20年度  
新公会計制度による4つの財務諸表(連結)

議員になって最初に戸惑ったのが、行政資料のわかりにくさでした。私は経営コンサルタントですから、財務諸表を分析するのは得意なのですが、それでもなかなか手強い。当時、夕張市の経営破綻が話題になっていただけに、こんな状態で高松市は大丈夫かと、強い危機感を抱いたものです。

このわかりにくさの原因は、「単年度会計・単式簿記」という、1年間の経費(支出)は必ずその年度内の歳入(収入)でまかなうという行政独特の会計制度のため。しかし、この歳入には税収だけでなく借金(公債)が含まれているので、一見収支が均衡しているように見えても、実際は赤字で借金がどんどん膨らんでいるといったことが起こるのです。

こうした問題点を解決するため、総務省は平成18年「新地方公会計制度」を示し、高松市でも平成21年度から貸借対照表などの財務書類を作成・公開することに(右図参照)。これによって将来の負担が明確になり、私たち市民にも高松市のお財布事情がわかりやすくなりました。

今回明らかになった資料から大きく4つのことがわかります。

- 01 市民1人当たりの資産**361**万円 負債**75**万円
- 02 高松市の純資産比率は**79.2**%
- 03 次世代からの負担は**21.7**%
- 04 市民一人当たりの行政コストは**37**万円/年

「国の借金は900兆円超！国民1人当たり700万円」とマスコミでは借金ばかりが取りざたされますが、ちょっと待った！高松市で言えば、負債3,197億円に対して、返済義務のない純資産は1兆2,143億円。総資産の79.2%も占めているのです。これは企業で言うところの「自己資本比率」に相当し、この比率が高いほど財政状況は健全と言えます。

つまり今の高松市に大切なのは、借金を憂うより、体力があるうちに次の有効な一手を打つこと。子どもや孫の世代に価値ある財産を残すか、無駄な借金を残すかは、まさに私たち次第。新たな設備投資や事業計画が適応かどうかをチェックするのはもちろん、市民ひとり一人が「できることは自分たちでやる」という意識を持って行政コストを下げていくことも大切なのです。

## 金融資産

資金	現金・預金など	171億円	※1
債権	未収入金・貸付金など	210億円	
有価証券		13億円	
投資等	出資金・基金など	182億円	

## 非金融資産

### インフラ資産

**1兆2,065**億円

(道路、上下水道、公園など)

事業用資産 **2,697**億円

(庁舎、学校、福祉施設など)

その他資産 ..... **2**億円

(繰延資産など)

どのようにお金を使ったか(貸方)

資産合計 1兆5,340億円

負債および純資産合計 1兆5,340億円

どのようにお金を集めたか(借方)

## 高松市民1人当たり

※人口425,268人(平成21年3月31日)で計算

負債	75	万円
資産	361	万円
純資産	286	万円

純行政コスト **37**万円 ※3

子どもたち  
ちょっと借りるよ

負債 **3,197**億円

純資産 **1兆2,143**億円

純資産比率 **79.2%**

純資産 ※2  
今までの世代が既に負担済みで返済義務のないお金

純資産比率 **79.2%**

純資産 ※2  
今までの世代が既に負担済みで返済義務のないお金

純資産比率 **79.2%**

純資産 ※2  
今までの世代が既に負担済みで返済義務のないお金

純資産 ※2  
今までの世代が既に負担済みで返済義務のないお金

## 貸借対照表(バランスシート)

左側(貸方)に資金の使い道(保有方法)、右側(借方)に資金の内容を書き、その2つのバランスで財政状況を表す。ただしインフラ資産は、取得原価=現在の貨幣価値ではなく、過去に購入した金額から減価償却した「帳面上の簿価」で集計しているのに注意！

### ※1 資金収支計算書(キャッシュフロー計算書)

1年間の資金の増減を示すもので、市がどのような活動に資金を必要としたかを表す。

期首資金残高	111億円
当期収支	60億円
(1) 経常的収支	383億円
(2) 資本的収支	△188億円
(3) 財務的収支	△135億円
期末資金残高	171億円

### ※2 純資産変動計算書

純資産(資産から負債を引いたもの)における1年間の変動を表し、どの財源や要因で増減したのかを示す。

期首純資産残高	1兆2,218億円
当期変動高	△75億円
(1) 純行政コスト	△1,575億円
(2) 財源調達	2,192億円
(3) その他	△692億円
期末純資産残高	1兆2,143億円

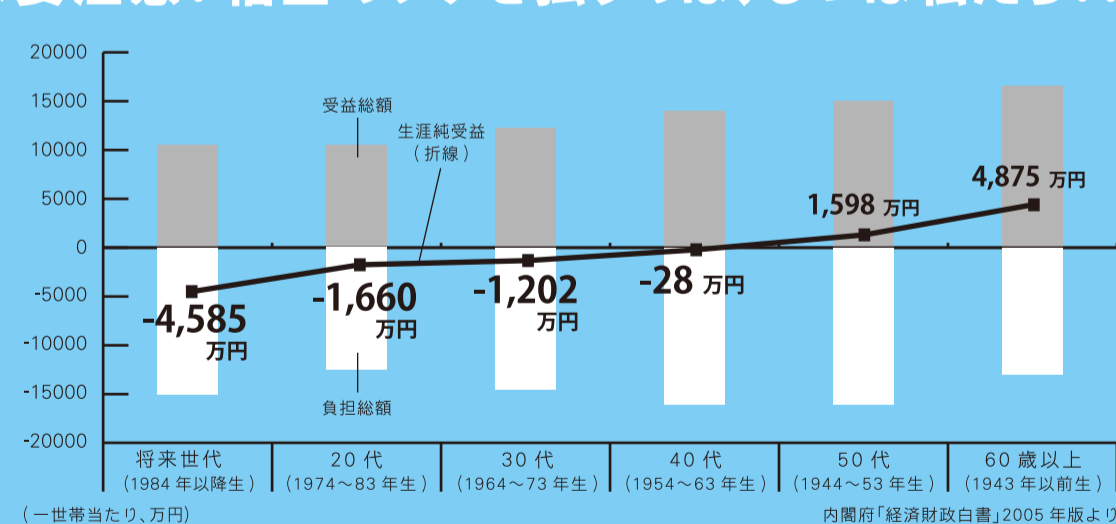
### ※3 行政コスト計算書

市の経常的コストと使用料・手数料等の収入を示す。従来の官庁計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上している。

経常費用	2,156億円
(1) 人にかかるコスト	406億円
(2) 物にかかるコスト	305億円
(3) 業務にかかるコスト	462億円
(4) 移転支的コスト	983億円
経常収益	581億円
純行政コスト(経常費用-経常収益)	1,575億円

## ただし! アラフォー世代以下は要注意! 借金のツケを払うのは、じつは私たち?!

上の表で、ひとまず安心と言えるのは今までの話。じつは、アラフォー世代以下の人には聞き捨てならないデータがあります。内閣府のデータによると、国民1人当たりが、生涯に納める税金と受給できる行政サービスや社会保障給付などの差額を年代別に分析したところ、現在40代(1954~63年生まれ)は生涯で28万円の負担超過となり、30代(64~73年生まれ)は1,202万円、20代(74~83年生まれ)は1,660万円もの負担超過が生ずると試算されています。つまり、20~40代の子育て世代ほど、受益よりも負担の方が大きくなるのです。せっかく先輩たちが貯めてくれた資産をムダ遣いしない、あるいは未来への借金を少しでも減らす。こうした努力は、とりもなおさず、私たち自身の未来のためでもあるのです。



## これまでの春田の公会計に関わる質問

高松市の財政をバランスシートの観点から見ると、もっと改良できることがあるのでは?と思ひ、これまで議会質問で継続的に取り上げてきました。そうした中で、ようやく見えてきたのが上のような実態です。

- 2007年6月 初めての一般質問
  - ・地方財政健全化法に示されている財務資料の公表への取り組み
  - ・未利用資産の売却・活用の取り組み
- 2008年6月 3回目の一般質問
  - ・職員スタッフの生産性向上
  - ・指定管理医者制度について
- 2008年12月 4回目の一般質問
  - ・資産評価算出方法における基準モデル採用について
  - ・資産活用への市長の所見
- 2009年12月 6回目の一般質問
  - ・投資の判断基準となる貸借対照表
  - ・新公会計制度公表に向けての進捗
  - ・建設計画の優先順位